

殿山第二小だより

令和 4 年 6 月 6 日 第 9 号

枚方市立殿山第二小学校

TEL:050-7102-9044

発行責任者 校長 山本 容子

ある保険会社は、全国の小学生・中学生・高校生、計 3,000 人を対象に行った第 33 回「大人になつたらなりたいもの」のアンケート結果をまとめ、発表されています。



それによると、小学生男子の大人になつたらなり

たいものの第 1 位は「会社員」、第 2 位は「YouTuber／動画投稿者」、第 3 位は「サッカー選手」。女子の大人になつたらなりたいものの第 1 位は「パティシエ」、第 2 位「看護師」・「幼稚園の先生／保育士」、第 4 位「会社員」でした。

男女ともに「会社員」が上位になっていますが、「会社員としてどんな分野の仕事がしてみたいか？」の問いには、「科学技術」「ものづくり」「食品・飲料」「自動車」「ソフトウェア・IT」「旅行・レジャー」「おもちゃ・ゲーム」等の関係の仕事をしてみたいと回答しています。このようなことから、小学生の子どもたちが「大人になつたらなりたいもの」は、現在の世相（コロナ禍、テレワーク、ネット社会、eスポーツ、宇宙開発等）を反映していることが伺えます。

作家の村上 龍氏は、その著書「13 歳のハローワーク」で、「いい学校を出て、いい会社に入れば安心。という時代は終わりました。」「好きで好きでしょうがないことを職業として考えてみませんか？」と問いかけています。

『自分は何が好きか、自分の適性は何か、自分の才能は何に向いているか、そういったことを考えるための重要な武器が**好奇心**。好奇心を失ってしまうと、世界を知ろうとするエネルギーも一緒に失われます。好奇心の対象は、いつか具体的な仕事・職業に結びつき、それが果てしなく広い世界の入り口になる。』と述べています。

また、以前にある教育研究所開発センターが実施した「若者の仕事・生活実態調査」によると、「子どもの頃、親や学校以外の大人と話をした。」「子どもの頃、地域の行事によく参加した。」というように、子ども時代に人や地域にかかわる体験を多くした若者ほど、仕事に向き合う姿勢や自身の能力に自信をもっていることがわかりました。

子どもの心身の健やかな成長・人間力の向上には、現実の社会で大人がどのような生き様をしているかを、子どもたちに魅せることが、学ぶことの意義を子どもたちに伝える一助になるのではないのでしょうか。

創立 150 周年という、歴史と伝統がある我が殿山第二小学校。これまでも、これからも、地道に誇りをもって生活されている多くの地域の人たちと出会い、つながりをもっていくことが大切なことと思います。子どもたちは、大人とふれあう中で、大人が持っている知識や技能、技や知恵を知り、大人のすごさを感じるとともに、**好奇心**を高めていくのではと考えています。

『殿ニッコリ』と笑顔を忘れず、世界一幸せで仲間を大切にする学校・地域をみんなで創りあげていきましょう。



5 月 10 日に航空写真、全体写真を撮影しました。今は、150 周年記念誌に掲載する寄せ書きを児童会所属の子どもたち中心に取り組みをすすめています。

